

かめTIMES

高松丸亀町商店街再開発事業のHOTなニュース、届けます。

Vol. **1**

2006 Dec.

いちばんがい オープン番街

新城下町物語、はじまる。



かめあゆみ第①回

商人の千里眼が まちを変える



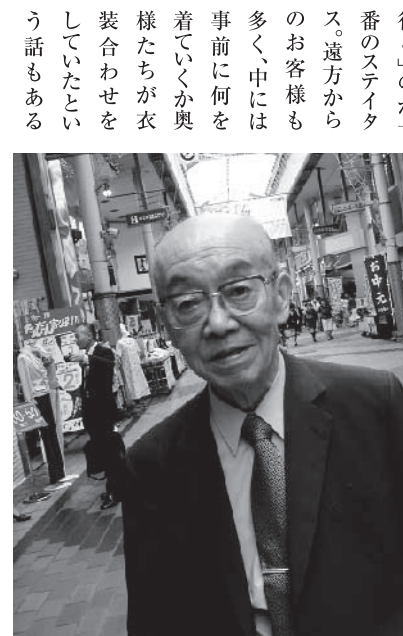
商店街として行なったバリ・カブシーヌ通りとの姉妹提携は全国の先駆けに



「開町400年祭」のパレード

●開町400年祭
瀬戸大橋が開通した昭和63年、丸亀町商店街は高松築城400年に合わせて「開町400年祭」を開催、町は108日間に及ぶロングイベントで活気にあふれていた。その絶頂の中で鹿庭さんの頭をよぎったのは「この賑わいが100年先も続くだろうか」という疑問。

そこから、丸亀町の新たな挑戦が始まっていく。
●情緒あふれる戦前戦後
そんな鹿庭さんが生まれたのは、大正13年。戦前の丸亀町は、賑やかと言うよりもゆったりと独特の風情がある町だったとか。
「呉服屋さんが多く、通りに10軒はあったでしょう。お客様も今のようにはインドゥショップングではなく、目的買いの方が多かったんです。だから家族的なお付き合い合いですね。お客様とのつながりが何より大事だと教わりました。先日も20年ぶりのお客様が店を訪ねてくれて、とてもうれしかったです。」



戦後は「三越と丸亀町へ行く」のが一番のステイタス。遠方からのお客様も多く、中には事前は何を着ていくか奥様たちが衣装合わせをしていたという話もある。

Profile

鹿庭幸男さん(かにわゆきお)
高松丸亀町商店街振興組合 理事長
大正13年生まれ。創業100年を越える老舗バッグ専門店「株式会社カニワ」の代表取締役。昭和56年より丸亀町理事長として、全国初の町営駐車場を作るなど常に先見の明で丸亀町をリードする。高松中央商店街振興組合理事長。

くらい、「まちに行く」ことが特別な響きを持っていた。そしてこの度、新たに番街がオープンする。「もう一度人とのつながりを見つめ直すことが大切。お客様に「この店なら安心」と思ってもらえる店が増えれば、高松の商店街は決してつぶれないですよ」と鹿庭さん。本物の商人がいるから商店街。伝統と品格を持った大人の町が、再び息を吹き返す。



突撃スナップ! アイラブ丸亀町



event calendar

丸亀町歳末感謝祭 「カメポンでポン!」
期間中丸亀町でお買い物をすると抽選券がもらえます。それを持って抽選会に行くとか豪華景品が当たるかも!

- 抽選券発行期間/12月1日(金)~25日(月) ●抽選会/12月21日(木)~25日(月)
 - ★特賞 ANAハローツアー 「グアム旅行」(ペア)×1本 ANAスカイホリデー「沖縄旅行」(ペア)×4本
 - ★1等賞 現金1万円 ×100本
 - ★2等賞 現金1,000円×240本 ほか
 - ★末等 出玉1個につき10円の丸亀町で使える小切手と交換、空ジクなし!
- 詳しくはHPへ <http://www.marugamemachi.ne.jp/>

まちへ行こう~
再発見! 新城下町

◎12月16日(土)、23日(土) 11~19時
各商店街にて「お休み処」を設置、様々なおもてなしがあります。

- 期間/12月10日(日)~24日(日)
 - 高松中央商店街と高松三越、高松天満屋が共同でスタンプラリーを実施。期間中、通行手形(応募台紙)にスタンプを5コ集めたら、各商店街及び百貨店に設置の投函箱へ。抽選で豪華景品がもらえます。(応募締切:12月24日まで)
 - ★大名旅行 10万円分の旅行券 ×5名様
 - ★大判・小判 5,000円分の商品券 ×200名様
- 問い合わせ/高松中央商店街振興組合連合会事務局 TEL 087-825-3506

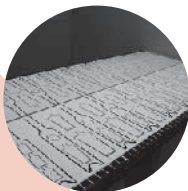
かめTIME S徹底取材! 壹番街解体新書

12月10日に、高松丸亀町商店街再開発事業の第一弾としてオープンする「壹番街」。その魅力をどこよりも早く、かめTIME S編集スタッフが取材、皆さんにお届けします。



こだわり1 ビルに“縁側” つくりました

通常の商業施設は、外から建物に入るとすぐに店内になりますが、「壹番街」はその間(セミパブリック)の空間を広く取っているのが特徴。言わば、日本家屋の“縁側”。例えば、東西を結ぶブリッジや、各階の“ポルティコ”(天井付き歩道)と呼ばれるテラスなど。人が自由に立ち止まったり集ったりできることで、居心地のよい空間が生まれます。



▲三宅さんのガラスアート

こだわり2 アートな味付け

彫刻や絵画が施されたヨーロッパの町並みのように、意匠には地元出身のアーティスト2人も参加。ガラス作家・三宅道子さんは、トイレ(レストルーム)に空き瓶をリサイクルしたガラスアートをデザイン。またポルティコの手すりやベンチ、ドーム下広場はNY在住の画家・川島猛さんが手掛けています。ぜひお買い物の合間にこちらの作品も楽しんでください。



川島さんの手すりのレリーフ

めざしたのは 「人にやさしい空間」

こだわり3 ひなたぼっこ できます

自然を取り入れる工夫も随所にあります。大きな建物では人工照明に依存するのが一般的ですが、「壹番街」では建物をいくつか分割することで、できるだけ自然採光を多く取り入れました。また、東館4階には屋上庭園も設置。これは丸亀町が行った消費者アンケートでも要望の多かったもの。これからはお買い物の合間に、空を見ながら休憩するのもいいですね。



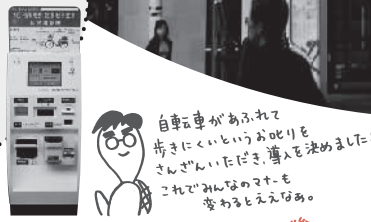
一言で言えば「人」中心の空間づくりでしょうか。丸亀町では、快適な公共空間と美しい街並みを実現するために、独自の「デザインコード」を設けています。歴史的な街並みが時代を経ても美しく訪れる人に感動を与えるように、快適でサステイナブルな空間づくりには一定の規範が必要。例えば、建物の高さやデザインを統一するなど美しい景観づくりも大切なおとなしい一つだと考えています。

ご当地デザイン、いろいろ

建物の意匠にも高松ならではの特徴が。紀伊國屋高松店では、建築家ケイニー・タン氏によって那須与一の弓矢をかたどった緩やかな曲線が天井を飾ります。また、三越北側駐車場は、城下町らしい鷹(うまや)をイメージ。しかもその格子の1本1本をよく見るとなんと矢の形に!これも、源平の戦いがあった屋島壇ノ浦にちなんでいるんだそうです。

絶対盗まれない駐輪場?!

全国でまだ数少ない自転車の立体駐輪場(全自動機械式地下駐輪機)が登場!カード式で収納した自転車は自動的に地下の駐輪場に格納され、カードを入れると再び呼び出される仕組み。このハイテク駐輪場、1日100円(1時間以内は無料)とリーズナブル価格で利用できます。



自転車があふれて歩きにくいというお悩みをさんざん悩んだら、導入を決めました!これでみんなの悩みも変わると考えました。

◆立体駐輪場の使い方



1 タッチパネルを押し、自動発券機に100円玉を入れます。緑色の利用カードを受取り、自転車収納口に移動します。
2 カード投入口に利用カードを差し込むと、自転車収納口の扉が開きます。自転車を押し込むと、自動的に固定されます。
3 床の黄線の外まで下がると、(黄線内にいると扉が閉まりません!)自動的に自転車が収納されます。感激!!

4 帰りは利用カードを投入口に差し込むと、自動的に自転車が出てきます。(1時間以内、または1日以上利用した場合は、あらかじめ自動発券機で精算してください)



広いテラスからの眺めも新鮮!

四国最大級のブランドエリア誕生

壹番街と高松三越本館を合わせると、世界のラグジュアリーブランドが9店舗もこのエリアに集中。しかも4ブランドは四国初出店です。もちろん地元店だって負けていません。ここでしか買えない限定商品もたくさんありますので、お見逃しなく。

ベンチとイスが61コ

お買い物の合間にリラックスできる休憩スペースも増えました。1階にはベンチを設置。また2、3階のテラスは幅6mとゆったり。イスとテーブルを配した休憩スペースになっていますので、ドリンクやスイーツをテイクアウトしてテラスで楽しむのもいいですね。



6m

コラム

歴史を見守る百十四銀行高松支店ビル

アーケードが取り払われ、建物全体が見えるようになった「百十四銀行高松支店」。じつは県営棧橋に続いて、町中に残る2番目に古い建物なんです。建てられたのは大正15年、2階建鉄筋コンクリート造(一部木造瓦葺モルタル造)。第2次世界大戦中は建物を迷彩色に塗り替え、行員さんの懸命な努力で何とか焼失を免れたそう。その後昭和27年に3階部分を増築。今も変わらず丸亀町を見守り続けています。



▲創業当時の百十四銀行



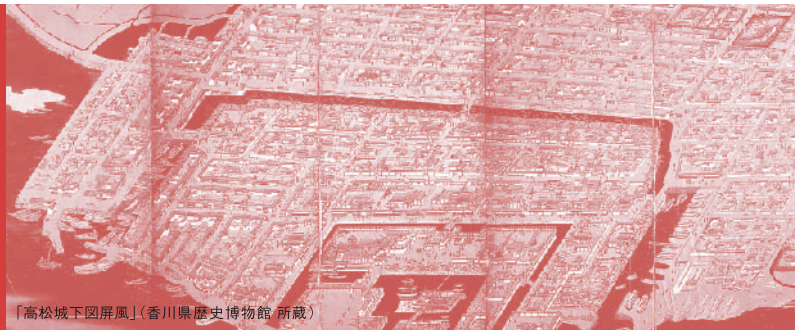
古い建物らしく、クラシックなデザインがいっぱい

高松丸亀町商店街振興組合
〒760-0029 高松市丸亀町13-2
丸亀町ビル3F・4F・5F
tel.087-821-1651 fax.087-823-0730

〔生駒家時代讃岐高松城屋敷制図〕(高松市歴史資料館 所蔵)

城下町に
商人が
移り住んで
誕生した
丸亀町。

天正十六年(一五八八年)生駒親正が高松城築城の折丸亀藩より商人を招いて城下に住ませた。丸亀町・魚屋町・塩屋町は商人町、紺屋町・唐屋町・大工町は職人町。高度な都市計画のもと、城下町は栄えていた。そして時は平成。いま一度街に必要な機能を見直し、人々が住み集う「暮らしの場」として、「新城下町物語」がはじまる。



〔高松城下町図〕(香川県歴史博物館 所蔵)



昭和40年代の丸亀町。当時は最新だった鉄骨のアーケード

町が動く。その根底には、人の気持ちや志(こころざし)があります。とくに、多くの商店が軒を連ねる商店街が変わるといことは、その利害調整だけでも大変なこと。それを、さらりと笑いを交えながら語ることができた方にお話を伺うことができました。明石光生さん。ご自身も、丸

亀町で「明石家製麺所」を営むご商人です。が、ご自身のお店はそこの(し)丸亀町の再開発を影で支え続けています。「鹿庭理事長の妄想(まぼろし)に付き合っただけやで(笑)」とおっしゃる明石さん。でも、その妄想を実現してしまおうところに、明石さんの本質が垣間見られます。

見限られた町。

誤 解を恐れずに言うとう、商人は、町を愛してはならない。人通りの多い、良い場所にはいつでも移れるよう、店にはクルマをつけておきなさい、というのが商売の鉄則。常に人の流れの変化を予測して、先手を打つということ。

丸亀町も80年代には、ダイエー、ジャスコを持つ商店街の南部に押されて、空店舗が目立ち始めていた。金があつて、やる気のある店こそ、逃げ足が速いもの。次々、人が集まる大型店やその周辺に出店するわけ。それはそれで商売なんやから誰もとがめられない。でも町を潰すのは商人自身でもある。仲間に見限られた町は、死ぬ。ものの見事に死ぬ。

100年先を見据える視点。

82 年に、鹿庭理事長に「開町400年祭は大丈夫やけど、500年祭は出来るんかな？今のうちに手を打っておかんと、間に合わないぞ。昔の100年の変化が10年で来る

ぞ」と言われて、この人、何言

よんかいな、おもしろいこと言う人やなとも思ったけど、その一言が無かったら、僕はこの仕事はしよらんかったやろな。

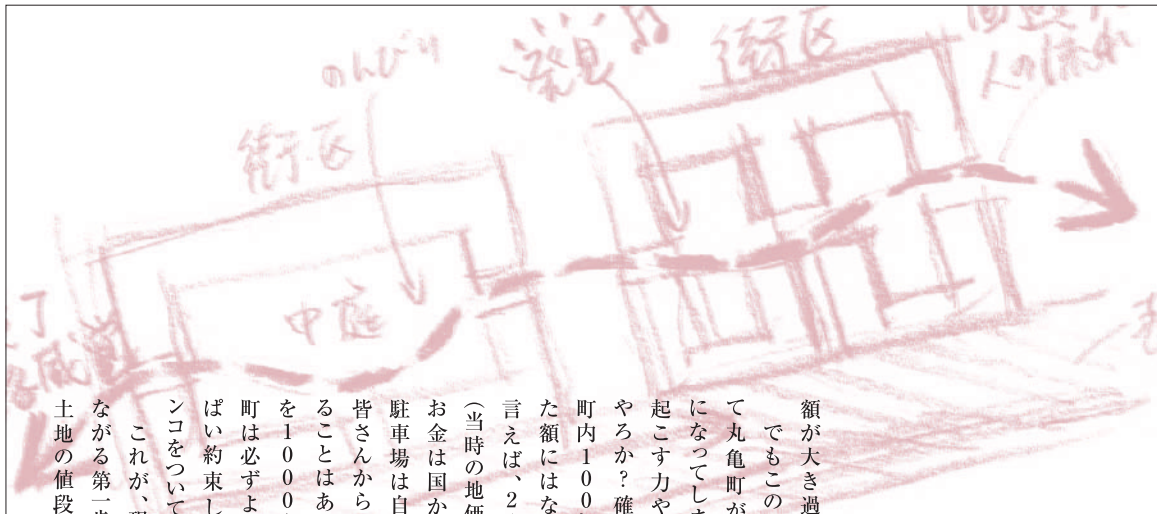
店言うても、永遠ではない。我々にできるのは、いつも人通りの絶えない町を作っておくことしかない。その中で、今ある店が残るかどうかはわからんけど、町を残そう、商売ができる環境だけは守ろうと考えた。

仲間に見限られないためには、この町が沈没しないことを証明しなければならぬ。で、最初に駐車場を作ろうとした。丸亀町はクルマ社会に対応しなす言うわけやね。

「ハンコ、つけてください。」

理 事長から「隣の土地が買えるから、立体駐車場の計画を作ってくれ」と言われて作ったのが、「町営駐車場1000台計画」(想定事業費30億円)と、その手始めとしての「北駐南駐計画」(370台、事業費8.5億円)。ただし、アーケード工事と同時だったので、総事業費が15億円を超え、金

100年先も楽しめる高松のメインストリートをつくりたい。



額が大き過ぎると大騒ぎ。でもこのまま通行量が減って丸亀町が借り手も無い町になってしまった時に、ことを起こす力や資金は残っているやろか？確かに大金ですが、町内100軒で分けたら大した額にはなりません。土地で言えば、2、3坪のことです(当時の地価は現在の約10倍)。お金は国から借りて来ます。駐車場は自力で返済できます。皆さんから新たにお金を集めることはありません。駐車場を1000台分持てば、丸亀町は必ずよみがえります。いっぱい約束して、役員さんにハンコをもらいました。

これが、現在の再開発につながる第一歩。ただ、その後は土地の値段が馬鹿みたいに上



大したことはできませんが...

要 は100年先も200年先も、出店するなら丸亀町やと思ってもらえたらそれで良し。店の入れ替わりは、それは

がって計画が頓挫。皮肉なもので、再開できるようなったのは、町が傷んで地価が暴落した後の平成14年。遅すぎやけど、しゃあないわな。必要でも維持できんもんは作れん。

それで仕方ない。ただ、「行きたい」と思われる町を目指して、商環境をきちんと作ってあげばいいやないかと。組合員の入れ替わりはいいけれど、この町を殺してはなりません。いうこと。それと、人が住める町であることが大事。

人が住まないと、町はおかしくなる。人が住むと、自然と町はできていく。それが、「再開発」です。大したことはできませんが、今よりは少し良くなります。

「今週の土曜日、何も用事はないなあ。町に行こか」言うてほしい。そんな町にしたい。それと、「すこききれいな町になりましたね」言うてほしい。それぞれが気を遣ってきれいな町にしたい。

な町にしたい。

チューリップに行っただ人が「きれいやし自分が住みたいと思いました」って言うけど、窓に花を飾ったりしてるのは、行政ではない。きれいな町にしたい。それと、「すこききれいな町になりましたね」言うてほしい。それぞれが気を遣ってきれいな町にしたい。

Profile

明石光生さん(あかしてるお) 高松丸亀町商店街振興組合の再開発担当/常務理事 有限会社ライオンヤ 代表取締役

昭和24年、高松市生まれ。初代は北古馬場町で呉服屋(あかしや呉服店)を営んでいたが、空襲で焼け出され、2代目は焼け残った西通町に移って下駄屋を開業。その後、本庁筋が回復し始めたため、ライオン通りに移って下駄屋から靴屋(ライオン靴店)に転向。

昭和38年、料飲店が増えてきたのでライオン通りから丸亀町に移転。平成18年、自分自身がメーカーになれる商売を一念発起して、うどん屋(明石家製麺所)に転身。まちなかの名店を目指して、現在はご子息の4代目が日々、研鑽中。文字通り「大黒柱に車を付ける」を実践してきた家筋だが、ご本人は丸亀町を永久の城とするために半生をかけて奮闘している。



400年祭では108日にも及ぶロングイベントに町中が沸いた



フランス・カブシーヌ通りとの姉妹提携の調印式



丸亀町開町400年祭で開会を宣言する鹿庭理事長

解説!!
丸亀町再開発
事業

市民参加によるまちづくり①
市民参加の日米事情

西郷真理子さん(さいごう まりこ)
(株)まちづくりカンパニー・シーブネットワーク代表、
コミュニティデザイナー

地域社会の主人公である市民にとって満足のおもてなしを行うためには、市民参加のもとで進められることが不可欠です。市民一人ひとりが主体的参加意識を持ち、自分たちのまちの状況を理解して問題を提起し、行政の提案に対して適切な判断ができる。さらに自ら積極的にまちづくりに関わる提案をし、かつ主体として関わることが望まれます。

そのためには、市民の側がまち・都市像について共通のイメージ

を持たなければうまくいきません。重要なのはそのシステムを作り上げていかなければならないということです。しかしこの点において、日本では、これまで既成市街地の整備は必ずしもうまくいっていません。その大きな理由は、地区の権利が複雑に錯綜し、住民の意志を統一することが困難なためです。

Development Movement)と呼ばれ、住民に最も身近な政府が、自らの意志によって自らの権限を行使するための計画および規制を決め、実行しています。こういった社会では、市民参加よりさらに進んでコミュニティ・コントロールとセルフ・ヘルプがキーワードになっています。

その活動内容は、「コミュニティ・コントロール」「セルフ・ヘルプ」「経済開発」の3本柱から成り、具体的には、コミュニティ再生のための計画立案、住宅供給、商業施設開発、雇用訓練や事業をおこして雇用機会をつくらうとするもの、ホームレスのためのシェルターを提供するものなどがあります。そして、そのほとんどはノンプロフィット・オーガニゼーション(NPO)であり、それを可能にする制度があることも特筆すべきでしょう。

(寄稿文・つづく)

方、米国の地域社会では、このような活動はコミュニティ開発運動(Community

三越は、昭和6年に高松店をオープンしました。これは、新宿店、銀座店に次いで、地方都市としては全国初です。昔から丸亀町には豪商が多かったそうで、当初から地域とうまく連携していたのだと思います。今、高松店で働いている中には地元の人も多く、私も丸亀市出身ということもあり、この店に対する思いは非常に強いものがあります。

今回のリニューアルに際し、私たちは「おもてなし」ということを大切に

おもてなしの心

この度のリニューアルで生まれ変わった三越高松店。特に高松店は、地域との共生を模索するモデルケースとして全国の三越の中でも高く評価されています。そこで、再開発担当の辻村武さん(三越高松店、営業推進部ゼネラルマネージャー)にお話を伺いました。



昭和12年頃の三越付近。写真左奥が三越「ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和 高松」(国書刊行会発行)より

まちとともに歩む百貨店として



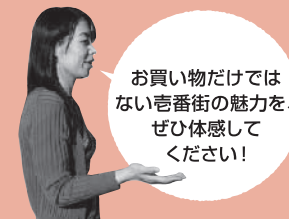
三越高松店 営業推進部ゼネラルマネージャー 辻村武さん

考えた。例えば、ロビーやレストスペースなどお客様がリラックスできる空間を設置。また本館の北側駐車場にはベルボーイを設け、ドアの開閉やお荷物の積み降ろしのお手伝いをする他、お車まで荷物をお運びするサービスも始めました。さらに新館1階にはクロックも新設。三越でのお買い物に限らず、商店街や番街でお買い物された商品もお預かりしています。

この他、休憩スペースに後藤塗のランプや保多織(ぼたおり)のラグを飾ったり、グリーンとして栗木のオリブを置くなど、店内の随所に讃岐ならではの意匠を凝らしています。

今後の抱負

三越高松店は、これまで以上に地元根ざした百貨店を目指します。その根底には、街が良くなってほしいという願いがあります。街が良くなれば、自然と三越にも人が来てくださる。今後も、高松の街にいつも新しい風を呼び込めるよう、地域の皆様とともに歩んで参ろうと思えます。



お買い物だけでは
ない老番街の魅力を、
ぜひ体感して
ください!

みんなにうれしい機能いろいろ～老番街の施設紹介～

老番街の建物は、ショッピングだけでなく、人々が触れ合える仕掛けや、ゆっくりと時間が過ぎるのを楽しめる工夫が散りばめられているのも特徴です。そんなもう一つの魅力を高松丸亀町まちづくり株式会社の水谷未起さんに伺いました。

高松丸亀町まちづくり株式会社
ゼネラルマネージャー
水谷未起さん



トイレのデザイン



各階トイレはすべてデザイン違い。東館4階の丸亀町Let's横は広々エレガントな「サロントイレ」、また西館2階は鬼門除けとして「難がサル」と言われる猿の鬼門石が埋め込まれています。さらに地元出身のガラス作家・三宅道子さんの作品も。

ブリッジが観覧席に



来春完成のドーム広場では、様々な催しが行われる予定。広場に面したブリッジは一番の観覧席になります。



丸亀町Let's (物販スペース)

丸亀町商店街内にあった丸亀町Let'sが、老番街の4階に移転しました。従来通り、地域の方の多目的スペースです。天井高が10mあるので、映像を使ったイベントやコンサートなど、活用の幅も広がります。



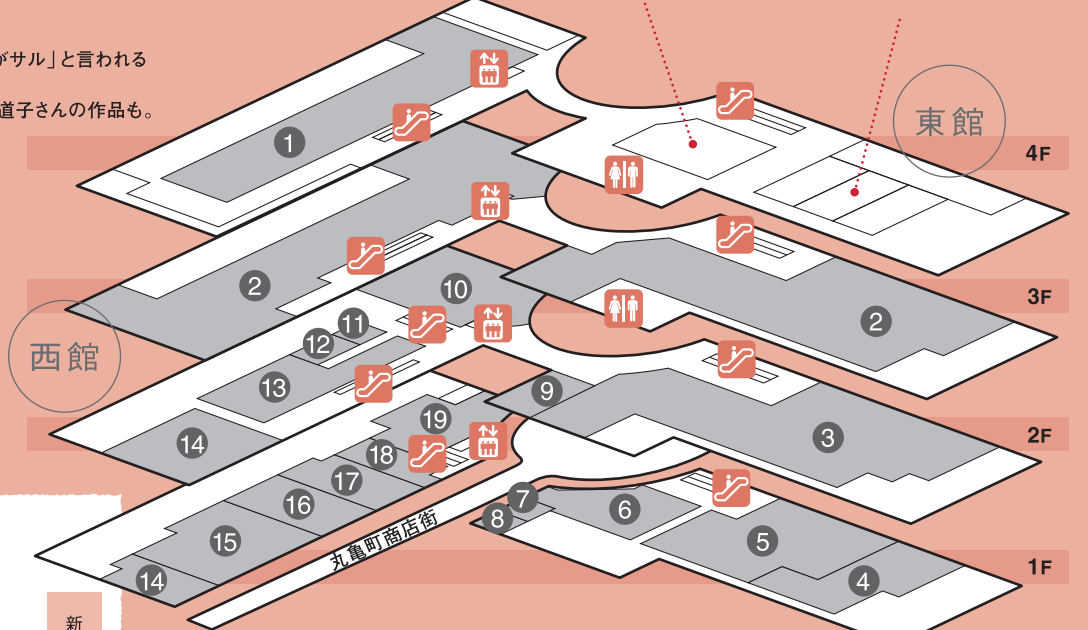
キッチンスペース

厨房を備えた部屋もあるので、料理教室などを開くことも可能です。



テラス

広々としたテラスは、休憩にぴったり。



高松丸亀町老番街駐車場



高松三越本館北側に新設の老番街駐車場は、220台収容。しかも24時間営業です。

- 1 ミクニ タカマツ/フランス料理 (Coming Soon)
- 2 紀伊屋書店/書籍・CD・DVD
- 3 ギャップ/ギャップキッズ MITSUKOSHI/レディス・メンズ・キッズ
- 4 ポッテガ・ヴェネタ MITSUKOSHI/靴・革小物
- 5 グッチ MITSUKOSHI/靴・財布
- 6 コーチ MITSUKOSHI/靴・財布
- 7 松風庵 かねすえ/スイーツ
- 8 コレクション コニシ/レディス・服飾雑貨
- 9 モアニ/インテリア雑貨
- 10 パバスカフェ/カフェ
- 11 デザートディッシュ/スイーツ
- 12 銀座3丁目 マゼラン/チーズケーキ
- 13 オフノオン/インテリア・生活雑貨
- 14 野田屋電機/電化製品
- 15 パバス マドモアゼルノンノン/メンズ・レディス
- 16 マックスマール/レディス・服飾雑貨
- 17 ギンチョウ アンド フルハウス/メンズ・レディス
- 18 ヨーガンレール/レディス・服飾雑貨
- 19 アイアイ イスズ ヴァンキャトル/宝石・時計

丸亀町のウェブサイト、できました。

http://www.kame3.jp

丸亀町亀井戸水神市場
とれたて野菜、続々入荷しています。

農業を出来る限り使用しない安全な野菜。生産者の顔が見える安心して食べられる野菜。この市場は、厳選した野菜だけをそろえています。



中央通り	丸亀町亀井戸水神市場	丸亀町商店街
中央公園	丸い亀さんパーク	11号線

平日/11:00~19:00
土・日・祝/11:00~18:00
◎定休日:月曜

株式会社 厳選 高松市丸亀町7-10 TEL.087-851-6150